

学校だより

3月号



平成28年 2月29日発行
さいたま市立本太小学校
Tel 048-882-3007
<http://motobuto-e.saitama-city.ed.jp>
e-mail motobuto-e@saitama-city.ed.jp

春の訪れ ～巣立ちの日を前に～

校長 井出了一

一雨ごとに寒さが緩み、本格的な春が近付いて来ました。毎朝、正門前で子どもたちを出迎えていると、風はまだ冷たくても、日差しが少しずつ力強さを増してくるのを実感します。

学年の締めくくりの時期を迎えました。今月23日には、卒業生一人ひとりに証書を手渡します。子どもたちは、この6年間で実に大きな成長を見せました。6年生は、集団登校で先頭に立って下級生の面倒を見ながら、地域の方々に元気な声で挨拶をしてきました。これからは5年生を中心とした新班長に先頭を引き継ぎ、卒業の日まで最後尾から見守ります。このように高学年の頑張りが、本太小の伝統として後輩たちに引き継がれていきます。

いま、卒業を控えた6年生と「会食」を行っています。毎日8名前後の児童が、校長室へ給食を持ち寄って、お話ししながら一緒に食事をします。中学校に進学したら「部活動を頑張りたい」「英語を頑張りたい」など、期待に満ちた前向きな児童が多く見られます。これは小中一貫教育という研究テーマで中学校との接点が増えたのが、良い影響を与えていると感じています。食後には、私の得意技「理科おもしろ実験」を楽しんでいます。

さて、皆様にもご協力いただきました「学校教育アンケート」の結果がまとまりました。2月23日には、児童・保護者アンケートの結果と職員の自己評価を、学校評議員・学校関係者評価委員の皆様にご覧いただき、協議の上で御意見をいただきました。この後、集計結果を課題や改善点と併せて、御家庭や地域の皆さまに「学校評価」として報告させていただきます。

年度末にあたり、さいたま市出身の詩人であり教育者でもある 宮澤章二先生 の詩を御紹介します。しっかり耳を傾け、語りかけ、夢を持たせ、実現させるために原石を磨く。まさに教育の原点ではないでしょうか。(宮澤章二氏:大震災の後「心は見えないけれど・・・」というACジャパンの広告で話題になった方です)



「流れの中で」

宮澤章二

聞ける時に聞いておかないと
決して聞けないコトバがある
言える時に言っておかないと
再び言えないコトバがある
つかめる時につかんでおかないと
死ぬまで無縁の宝がある
みがける時にみがいておかないと
光らぬまま朽ちていく宝がある
得たものを失うその数よりも
得られずに失われたものたちの数の多さ
わずかな知恵とわずかな努力が
それらに触れ得たかもしれないのに

